

## モモアカアブラムシ及びワタアブラムシに対する各種殺虫剤の効果

葎原 敏 夫・河 合 章 (野菜試験場久留米支場)

YOSHIHARA, T. and A. KAWAI: Efficacy of Several Insecticides for the Control of Two Aphid Species, *Myzus persicae* and *Aphis gossypii*

最近アブラムシ防除剤の効果が十分でない事例が見聞され、筆者らもそうした事例を経験した。こうした現象が生じる要因はいろいろと考えられるが、まず温度の影響について検討し、さらに既登録の主要なアブラムシ防除剤について、その効果を確認するために試験を行ったので、その結果を報告する。

## 1. 試験方法

1) 鉢植えのナスにモモアカアブラムシを5頭ずつ接種し、所定温度のガラス室内に置き、数日後にアブラムシ数を数えた後、薬剤処理を行い、再び所定温度のガラス室内に置き、1日後、3日後のアブラムシ数を調査し

た。薬剤処理は各薬剤とも市販品の1,000倍液100mlをスプレーガンで1.2kg/cm<sup>2</sup>の圧力で、1.2mの距離からターナーテーブルに載せた3鉢のナスに向けて噴霧することにより行った。試験2は接種虫数を10頭とし同様の方法で行った。

2) 鉢植のナスにモモアカアブラムシ、ワタアブラムシをそれぞれ5頭ずつ接種し、図に示す薬剤(市販品)の1,000倍液(ESPのみ1,500倍)を同様に処理し、雨よけのためビニールハウス内で管理した。

第1表 薬剤処理前後の温度とモモアカアブラムシの密度増加率

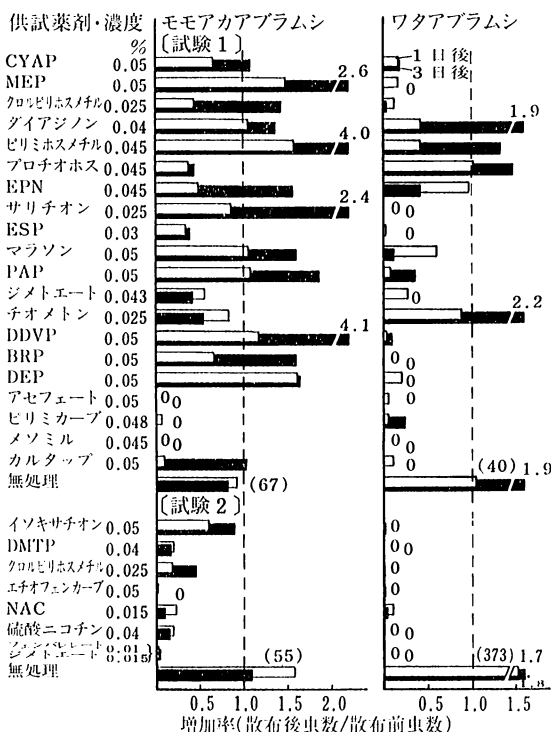
処理温度 前度 ℃	処理温度 後度 ℃	無処理		DDVP		DEP		シメト エート		アセフェ ート	
		1日 後	3日 後	1日 後	3日 後	1日 後	3日 後	1日 後	3日 後	1日 後	3日 後
30	30	0.8	0.9	0.8	0.6	2.1	0.8	0.4	0.5	0.2	0.1
25	30	1.3	0.7	0.4	0.4						
20	30	1.3	1.3	0.4	0.3						
試験 1	30	25	—	—	1.2	2.3					
25	25	1.3	1.4	0.9	1.4	1.3	0.8	0.3	0.3	0.1	0.0
20	25	0.7	1.5	1.2	1.3						
30	20	1.3	7.7	1.5	3.1						
25	20	1.8	2.2	1.1	1.6						
20	20	1.0	1.4	0.8	2.0	1.2	1.4	0.4	0.2	0.1	0.0
30	30	1.7	2.7	2.2	2.7	1.8	2.3	1.7	1.7	0.1	0
25	30	2.5	4.0	3.1	4.4						
20	30	2.4	3.0	2.3	3.0						
試験 2	30	25	1.4	1.8	2.2	3.1					
25	25	1.4	2.7	1.5	2.7	2.2	2.8	1.8	2.6	0.0	0
20	25	2.7	3.8	2.6	3.9						
30	20	1.6	2.1	1.3	2.1						
25	20	2.2	2.9	2.0	2.6						
20	20	1.4	2.3	1.6	2.4	2.1	2.1	2.2	2.7	0	0

注：試験1は8月19日接種、8月22日より温度処理(処理前温度)、8月29日薬剤処理、後再度温度処理(処理後温度)、試験2は9月13日接種、9月16日より温度処理、8月19日薬剤処理、品種「新長崎長」  
数値は密度増加率(薬剤処理後虫数/薬剤処理前虫数)

## 2. 結果及び考察

1) 試験した温度範囲内では、温度によって薬剤の効果が極端に変わることはなかった。

2) モモアカアブラムシとワタアブラムシに対する薬剤の効果は異なり、モモアカアブラムシに対して効果の認められない薬剤が多くみられ、特にリン剤が多かった。ワタアブラムシに対して効果の認められない薬剤のみみられたが、十分に効果が認められる薬剤も多かった。



第1図 アブラムシに対する各種薬剤の効果

注：試験1は品種「新長崎長」6月30日接種、7月4日薬剤処理、試験2は品種「大成早生長」6月30日接種、7月8日薬剤処理、( )は薬剤処理前の無処理区の虫数